

<読者投稿>

行政調査新聞の記事を読んで思うこと

(2015年12月1日)

『家族にも見放される悲しい老人！川合善明市長が見ているのは「自分の名誉だけ」か？』を拝読致しました。

私は市長が参席するタウンミーティングに参加したこともある川越市民です。記事に書いてありましたように、タウンミーティングで市長をはじめとする執行部の方々に要望などを伝えれば早急に解決してくれるものと思っておりました。

しかし、そう簡単に要望は実現しないのですね。具体的なことは伏せさせてもらいますが、タウンミーティング終了後、ご近所の方と帰り道に「これで市長に伝えたから、あの件はなんとかかなりますね」と話しながら帰りましたが、考えてみると何の進展もしていないことを思い出しました。

私もタウンミーティングの場に参加していながら、市長にお願いしたということで安心してしまい、すっかり忘れていました。

そして行政調査新聞の記事を読み、現実味のないお願いであったのかと実感が湧いているところです。私は、川合市長は市民派の市長と思い込んでいましたが、単なる自己満足。次の選挙のためのパフォーマンスでしかなかったのですね。

私は政治資金規正法などの法律は勉強不足であまり理解できないのですが、「川合よしあき市政報告会」のご案内や「後援会ニュース」を見ると、素人の私でも「少しおかしいな」と思います。

中でも「新学校給食センター整備」は、まだ議会すら通っていない案件のようですね。これを自分の手柄だと堂々とアピールすることは、あまりにも乱暴なのではないでしょうか。それとも議員さんとは、既に話がついており間違いなく議員さんの承認を得られるという確信があったため「後援会ニュース」に掲載したのでしょうか。この件に関しては、市長の傲慢であり議会を無視した行為だと私は思います。

今回、このようにメールをいたしましたのは、「家族にも見放される悲しい老人！・・・」の記事を読み、川合市長の本性が垣間見えたので、以前から胸の奥に詰まっていたことを聞いて頂ければと思いメールをいたしました。

11月10日発行の広報川越に関して私が感じたことです。

この広報の記事には、「東洋大学全日本大学駅伝初優勝おめでとう！」という記事が掲載されていました。私は「東洋大学の駅伝も頑張っているんだな」と心の中で思っていたのですが、ふと東京国際大

学のことを頭に浮かびました。

17日に箱根駅伝の予選会があり、東京国際大学は初の箱根駅伝への出場を決めました。今回の広報に何で記事がないのかと思いながら広報の発行日を見ると、編集に間に合わなかったのだと理解しました。次の広報で「東京国際大学・箱根駅伝初出場！」と記事になるのだらうと、そのときはあまり考えもせずに終わってしまいました。

しかし、次の広報(11月25日発行)を見ると、東京国際大学のことは何一つ触れられてはいませんでした。なぜ、東洋大学と東京国際大学に差をつけるのでしょうか。同じ駅伝であり、同じ川越市にある大学なのに…。東洋大学は広報に記事を書いてもらうため、広告料などを支払っているのでしょうか。東京国際大学は、東洋大学のように箱根駅伝の常連校にでもならないと、記事にもならないということなのでしょうか。

広報を編集しているのは川越市です。広報の最終決裁は市長なので、市長は東京国際大学より東洋大学をひいきにしているのだと感じます。市民の方も私と同じ考えをするのではないのでしょうか。

広報川越の、また市長の2校の取り扱いの差に疑問を感じます。

川越市とは大学名によって格差を付けるのかと怒っている市民が多くいます。なにか東京国際大学が可哀想に思えます。

広報の記事に関してもう一つあります。

東洋大学の記事の右側に掲載されていたノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章さんの記事です。川越高校を卒業された梶田さんを讃える記事なのですが、市長自らコメントを出しています。ノーベル賞を受賞、川越高校の卒業生といっても東松山市出身で川越にも在住していません。

ノーベル賞を受賞することは大変なことです。また川越高校卒業生も世間では頑張っていることでしょう。例をあげれば坂戸市の石川市長も川越高校卒業生です。

しかし、私は広報に市長のコメントを掲載することは、ちょっと不自然な気がすると思いながら記事を読んでいました。私は、少々性格がひねくれているのかもしれませんが。

しかし、行政調査新聞の「家族にも見放される悲しい老人！・・・」の記事を読み、私のひねくれた性格を肯定できるのでは、と思いました。

市長は現在2期目でありますが、どうも世間の噂や行政調査新聞の記事でもあるように、市長を支持する人達が離れていってしまっているようです。ましてや、市長を支える母体でもある川越高校同窓生すらも市長から遠ざかっているようです。

そこで市長は考えたのでしょう。梶田さんを使って川越高校卒業生にアピールすることを。私が広報を読んだときに、何か胸の奥に詰まった、スツとしない感情はここにあったのだと確信しました。

川合市長は広報という川越市民が目を通す媒体を利用し、姑息にも「私も川越高校出身ですよ」と言わんばかりのアピールをおこなったのです。やはり広報は市長の宣伝活動の一つなのです。

「後援会ニュース」にも書いてあったようにそこまでして川合さんは3期目の市長の座を狙っているの

です。これにはさすがに私も呆れて物が言えません。こんな人に川越市を任せておくわけにはいかないと思います。同じ川越高校出身市長でも坂戸の市長と川越市長と競べると、比較になりません。川越市民として情けない人を市長に頂いたと残念に思えてなりません。

行政調査新聞社さんには、これからの川越市をしっかりと見ててもらわないといけません。このままでは川越市がダメな市になっていってしまいます。

オリンピックも間近です。川合さんがこのまま市長に就いていけば、世界に川越市の恥を晒すような事態になるのではないのでしょうか。

川越一市民より